

事業計画

第2期

リハセンターかけはし
リハビリ特化型デイサービス

MISSION STATEMENT

成果が見える・通う理由が明確・
安心して任せられる



01 高齢化の進展と社会的要請

東近江市では高齢化率の上昇が続き、要支援・要介護認定者数も中長期的に増加が見込まれています。軽度者における重度化防止や認知症予防の重要性が年々高まっています。

02 「通う意義」の明確化が必須

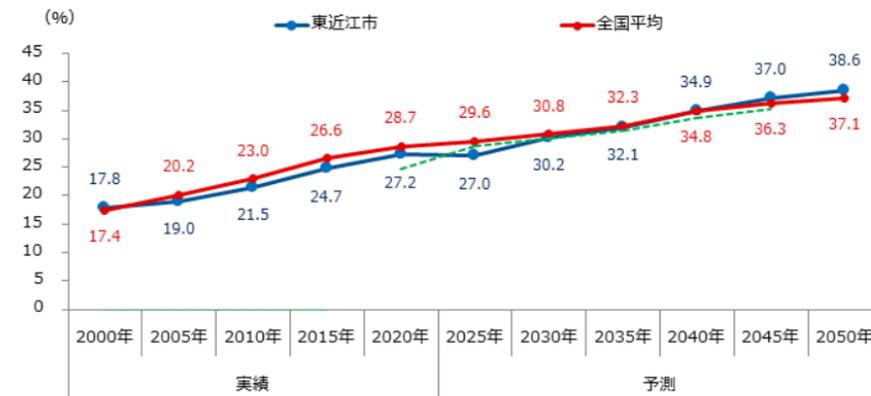
通所介護事業所には、「通わせること」だけでなく、「通うことで何が変わるのか」を明確に示すことが求められています。

★ 当施設の強みと実績

リハセンターかけはしは、**コグニサイズ**と**多面的身体機能評価**を軸に、科学的根拠に基づく支援を実践してきました。

Ⅱ 東近江市の高齢化率推移

東近江市の高齢化率の推移

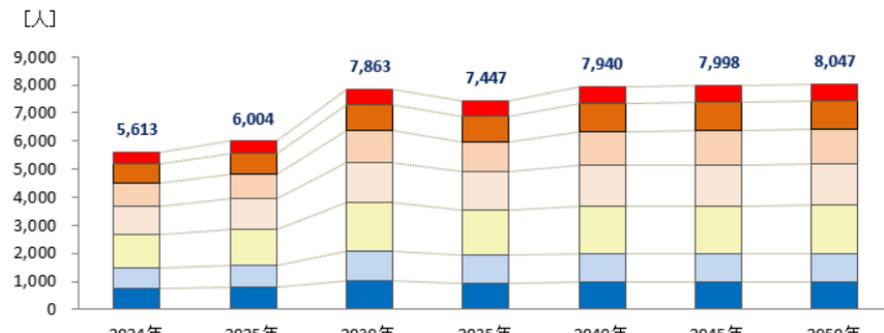


※高齢化率：総人口に占める65歳以上の人口割合(%)，年齢不詳を除いて算出

※図中の緑の点線は、前回2018年3月公表の「将来人口推計」に基づく当地域の高齢化率

Ⅲ 要介護者数の将来推計

東近江市の要介護(要支援)者数の将来推計



第1期の振り返り（実績ハイライト）

1日平均利用者数

20.2 人

✓ 期間平均

平均稼働率

67.3 %

目標未達

最高稼働率 (9月)

73.0 %

↗ 期末に達成

最低稼働率 (11/2月)

61.0 %

▲ 冬季の落ち込み

キャンセル率

15.7 %

年間平均

月次推移（利用者数・稼働率）



1 前半の低迷期

10月から2月にかけては稼働率が**60%台前半**で推移。特に冬季（11月・2月）は最低値**61.0%**を記録し、季節性の影響が見られた。

2 3月以降の回復・安定

3月に**20.9人（69.7%）**へ急回復。以降は**70%前後で安定**し、底堅い需要を確認できた。

3 後半の成長トレンド

期末の9月には最高値**73.0%**を達成。次期に向けて上昇気流に乗った状態で終了。

 滋賀県社会福祉学会 2026

にて発表実績あり

発表タイトル

「コグニサイズと多面的身体機能評価の取り組み」



内部効果

社員モチベーション・組織力

 **社員のモチベーション向上**

自分たちの取り組みが公に認められることで、専門職としての誇りと達成感を醸成。

 **チーム一体感の醸成**

共通の目標（発表）に向かってデータ収集・分析を行うことで、組織の結束力が強化。

 **職員の成長意欲促進**

「感覚」ではなく「数値」で語る習慣が定着し、質の高いケアへの探求心が向上。



外部効果

対外的認知・ブランディング

 **対外的認知の獲得と信頼**

学会発表を行う事業所として、地域や関係機関からの信頼性が大きく向上。

 **ケアマネジャーからの評価**

「エビデンスに基づく支援」が評価され、紹介時の強力な動機づけ要因に。

 **施設ブランドの確立**

単なるデイサービスではなく、「専門的なリハビリ機関」としてのブランドを確立。

➡ 第2期も継続的な研究発表を推進し、組織とサービスの質をスパイラルアップさせる

基本理念

「やってみたい」を形にし、
通うことで“変化が実感できる”デイサービスを実現する



01

成果の可視化

科学的根拠に基づき、成果を数値やグラフで可視化する。

専門性と信頼性を高め、選ばれる施設へ。



02

通所動機の明確化

「なぜ通うのか」を明確にし、継続利用・利用頻度向上を図る。

利用者自身の「意欲」を引き出す。



03

安定稼働の確保

キャンセル対策と新規獲得のバランスを最適化。持続可能な事業運営のための稼働率80%を目指す。

す。

● 1日平均利用者数

**24.0** 人

第1期実績: 20.2人

↑ +3.8人

● 稼働率 (定員30名)

**80** %

第1期実績: 67.3%

↑ +12.7pt

📄 新規契約

1~2 件/月

安定確保 コンスタントな獲得

📅 週2回以上利用者率

増加 傾向

対前期比

↗ UP

✂ キャンセル率

15 %以下

第1期実績: 15.7%

↓ 微減目標

「感覚」から「科学」へ

AI歩行分析「トルト」を全面活用し、施設の差別化と支援の質を飛躍的に向上させます。



AI歩行分析による科学的評価

動画を撮るだけでAIが歩行を解析。速度、リズム、左右差などを数値化し、目に見えない課題を明らかにします。



客観的データの蓄積と可視化

評価結果をクラウドに蓄積し、長期的な変化をグラフ化。利用者の「良くなった」をデータで証明します。



データドリブンの支援計画

経験則だけでなく、定量データに基づいてリハビリメニューを最適化。根拠のある支援を提供します。



リアルタイム評価と改善追跡

その場ですぐに結果を確認し、利用者と一緒に振り返り。モチベーション

CareWiz トルト

AIが歩行を見える化する

トルト評価レポート (イメージ)



● 今回 (2025.10)

● 前回 (2025.07)

☰ 通う理由を明確にするアクションプラン



パンフレットの刷新・活用

第1期データを可視化し、「通う理由」を明確に提示。

「週1回=機能維持、週2回以上=機能向上」



居宅事業所向け説明資料の整備

ケアマネジャーが利用者に説明しやすいツールを作成。
体験 → 契約 → 週2回以上の利用へとつなげる導線を構築。



タッチポイントの強化

多面的なアプローチで信頼関係を構築する。

- 居宅訪問による定期報告
- 家族説明会の開催
- 医療機関との連携強化

TARGETS

成果KPI

広報・営業活動による定量的目標

月間問い合わせ数

10件/月

体験 → 契約転換率

40%

週2回以上利用者の比率

+10pt

対前期比

歩 週2回以上の通所で改善

動的バランスおよび歩行能力において、週2回以上の通所が有意な改善をもたらすことが学会発表データより明らかになりました。

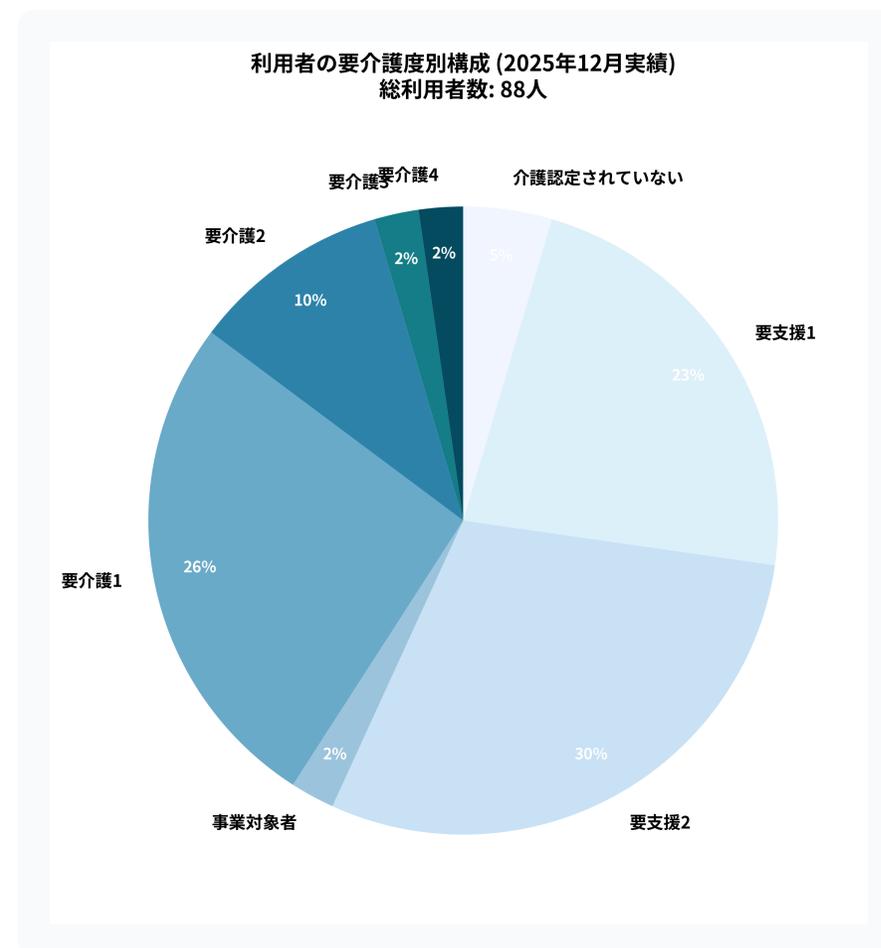
🔄 訓練意欲の向上が鍵

訓練意欲が高い群では静的バランスの低下を防止できる傾向があります。声かけや目標設定によるモチベーション管理を徹底します。

📏 「量」×「質」の両面介入

通所頻度（量）と訓練意欲（質）の両面からアプローチすることで、転倒リスクの低減と自立支援を最大化します。

📊 利用者の要介護度別構成（2025年12月）



📌 利用者層の特徴：要支援2および要介護1の軽度者が中心であり、重度化防止と機能維持・向上が重要な層が過半数を占めています。

▲ ISSUE / 課題

💡 ACTION / 対応策



冬季の欠席増加

天候不順・気温低下による稼働率低下



- ✓ 振替提案の標準化: 欠席連絡時に即時振替を提案するフローを確立
- ✓ 週2回以上利用者の確保: ベースの利用頻度を高め、単発休みの影響を軽減
- ✓ 送迎リスク管理: 天候悪化時の送迎判断・連絡手順のマニュアル化



離脱・ロスの把握

防げる離脱の見逃し・理由不明確



分析

月次レビューの実施

ロス理由を分類・蓄積

介入

早期兆候への対応 「休みがち」「意欲低下」等のサインを見逃さず面談実施



支援の質の均一化

スタッフ間での評価・指導のバラつき



📊 成果データ共有会

定期的に事例検討を行い、視点を統一

📄 標準化チェックリスト

評価手順・指導ポイントをマニュアル化



キャンセル率対策

当日キャンセル・体調不良による欠席



- リマインド運用: 前日連絡を徹底し、うっかり忘れや体調確認を行う
- 在宅運動メニュー提供: 休んだ利用者へ宿題を提供し、つながりを維持

**成果が見える**

データに基づく可視化

**通う理由が明確**

目標と役割の再確認

**安心して任せられる**

専門性と信頼の確立

第2期

主要達成目標

平均利用者数

24人

稼働率

80%

新規契約

1-2件/月

キャンセル率

15%以下

▶▶ NEXT ACTIONS (Q1: 2025.10-12)

01

SYSTEM

トルト導入・
評価プロトコル運用開始

02

SALES

パンフレット・
説明資料の全面刷新

03

OPERATION

冬季対策
プロトコルの策定

66

地域に根ざした専門性の高いリハビリ特化型デイサービスとして、
利用者一人ひとりの「できる」を支え続ける。